

森を育む人づくりサポート体制整備事業

中村好範・木本美知子・樋口大輔

「みえ森と緑の県民税」を財源に「森を育む人づくりサポート体制整備事業」として、次の取組を行った。

1. 森林教育体制整備事業

(1) みえ森林教育ビジョンの実現に向けた取組

みえ森林教育ビジョンの実現に向け、森林教育プログラムの作成や様々な世代を対象とした森林教育講座を実施した。

◆小学校向け森林教育プログラムの作成

小学校において通常の授業で森林教育に取り組めるよう、小学校で使用する教科書(1~6年)を、森林・林業の視点で横串しにした一覧表「小学校における森林教育プログラム」の作成に着手した。

◆保育・幼児教育機関における森林教育の実施

保育・幼児教育において森林教育を推進するため、森のようちえん・野外体験保育、森林教育に関心のある保育関係者により、「どんな森林だったら保育・幼児教育に活用できるか知ろう！」をテーマに交流会を開催した。

(参加者：幼稚園・保育所・行政関係者 7名)

◆子どもたちを対象とした森林教育講座の実施

小学生の子どもたちを対象に、森や木、林業についての関心を高揚し理解を促進することを目的に「ジュニアフォレスター育成プレ講座」を開催した。

(参加者：小学3年生~6年生 12名)

◆短大・大学生等を対象とした森林教育講座の実施

教育・保育等の分野に携わろうとする学生を対象に、森林教育についての理解を促進することを目的に「みえ森林教育 学生ワークショップ」を開催した。

(参加者：教育・保育・森林・建築関係の学生等8名 聴講者：12名)

◆企業を対象とした森林教育講座の実施

県内に本社・事業所等を置く企業を対象に、自社の経済活動や商品開発、社会活動、オフィス環境の整備といった様々な取組やビジネスに森林や木材の要素を取り入れてもらうことを目的に「SDGs時代の企業における森林とのつきあい方について考える」をテーマとした講座を開催した。

(2) みえ子ども森林・林業アカデミー自然体験事業

子どもたちの健全な心身と森林・林業への関心、愛着を図るため、県内の森林をフィールドとして子どもの「生きる力」を育む体験活動が展開されるよう「森林をフィールドに子どもの生きる力を育む指導者養成講座」を開催した。

(参加者：保育・教育関係者、自然体験施設関係者、林業関係者等 9名)

(3) 森林教育体制整備

◆副読本の作成

小学校5年生の社会科教科書の副読本として、森のはたらきや緑の循環、木材利用の意義、校庭の樹木のCO₂吸収量測定ワーク、県内各地域の森林・林業の特色などを解説した冊子を作成し、県内の小学5年生の児童全員に配布した。

◆みえ森林教育ステーションの認定

森林や木、木材の魅力に触れることができ、森林教育を展開できるスペースを有する施設を「みえ森林教育ステーション」として認定した。

また、認定には、複数人が一度に利用できる県産材の遊具や床（4 m²以上）の設置、木製玩具や森林・林業に関する絵本・図書の常設、森林教育活動の実施等が基準となっているため、必要に応じてそれらの物品等を支給する「みえ森林教育ステーション整備支援事業」にも取り組んだ。

（R3 年度認定件数 6 件）

◆森林教育イベント等の実施

令和3年11月20日に三重県民の森で開催した「森に集まれ！みえ森フェスタ 2021」において、木工工作体験などのブース出展を募り、大人を対象とした木工体験も行うなど、森林教育に関するイベントを行った。

2. みえ森づくりサポートセンター運営事業

森林教育や森づくり活動にかかる総合窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を運営し、森林の持つさまざまな機能や木材利用への理解を深めるとともに森林教育について知っていただくため、学校等における出前授業の実施や、森林教育指導者や森づくり技術者の育成を行ったほか、各種相談にきめ細かく対応するなど、広域的・総合的なサポートを行った。

3. 森林教育施設整備事業

（1）三重県民の森「みえ森林教育ステーション」の整備

令和2年8月から令和3年6月にかけて、三重県民の森の自然学習展示館を改修し、「みえ森林教育ステーション」として三重県産のスギ・ヒノキを使用した木質空間・木製複合遊具を整備した。

設計にあたっては、県立伊勢工業高等学校建築科の皆さんに協力いただき、コンセプトの策定から基本設計などに携わっていただいた。